

第53回宮城県産業振興審議会

日時 令和6年8月8日(木)
午後1時30分から3時30分まで
場所 宮城県庁行政庁舎4階 特別会議室

1 開会

■富県宮城推進室 太田副参事

それでは定刻となりましたので、ただいまから第53回宮城県産業振興審議会を開会いたします。

2 挨拶

■富県宮城推進室 太田副参事

開会に当たりまして、宮城県経済商工観光部長の梶村より御挨拶を申し上げます。

■経済商工観光部 梶村部長

皆さんこんにちは。本日は御多忙の中、本審議会に御出席賜りまして誠にありがとうございます。

本審議会は知事の諮問に応じまして、産業の振興に関する重要事項を御審議いただく場として条例に基づいて設置されております。本日は今年度における第一回目の開催となりますが、新たな議事として「第6期みやぎ観光戦略プラン」の策定について諮問させていただきます。

さて、最近の観光動向を見ますと、昨年5月より新型コロナウイルスが感染症法上の第5類に移行されまして、観光客数は堅調に回復しており、とりわけ本県のインバウンドの状況を見ますと、今年1月以降の外国人宿泊者数は、令和元年を大きく上回る水準で推移してきておりまして、今後の更なる増加が期待されているところでございます。

一方で昨今の観光業界は、長引くコロナ禍の影響に加え、物価、エネルギー価格の高騰による収益力の低下、人材不足や旅行ニーズの変化への対応などの課題があるものと認識しております。

県といたしましては、これらの課題を乗り越えるためにも、関係者の皆様と一丸となって、創造的かつ持続可能な観光地域づくりに向けて、観光産業の体制強化や地域資源を活用した魅力的な観光コンテンツの造成などの取組を一層推進してまいりたいと考えております。委員の皆様にはこうした点を踏まえまして、本県の持続可能な観光地域づくりの実現に向けた観光振興の方向性や、具体的な取組へのアイデア、数値目標の設定などについて、それぞれの立場から忌憚のない御意見、御提案を賜りますようお願い申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

■富県宮城推進室 太田副参事

それでは議事に入る前に、定足数についてご報告いたします。

本審議会の定足数は半数以上となっておりますが、本日は委員20名に対し、18名の委員に御出席いただいております。

産業振興審議会条例第5条第2項の規定に基づき、本日の会議は有効に成立していることを御報告いたします。

なお、佐藤太一委員、高橋知子委員から所用のため御欠席との報告をいただいております。

次に会議の公開についてでございます。

本審議会は平成12年度の第一回会議において公開すると決定しておりますので、今回も公開として進めさせていただきます。

3 議事

(1) 「第6期みやぎ観光戦略プラン」の策定について

■富県宮城推進室 太田副参事

それでは議事に移ります。本日の議事は次第のとおり1件でございます。

ここからの議事進行は、産業振興審議会条例第5条の規定に基づき、内田会長にお願いいたします。内田会長、どうぞよろしくお願ひいたします。

■内田会長

どうも内田でございます。よろしくお願ひいたします。これまでもやらせていただいておりますけれども、皆さん方もたくさん出てくださいます。いつも大変有意義な御意見を出していただきました。今後も一つよろしくお願ひいたします。それでは、議事に入らせていただきます。

第6期みやぎ観光戦略プランの策定について事務局からお願ひいたします。

■富県宮城推進室 太田副参事

はじめに第6期みやぎ観光戦略プランの策定について、産業振興審議会に諮問させていただきます。梶村経済商工観光部長から内田会長に諮問書をお渡しいたします。

(諮問書の手交)

■内田会長

ただいま、経済商工観光部長から第6期みやぎ観光戦略プランの策定について諮問されました。皆さんにも諮問書の写しが配布されていることと思います。産業振興審議会全体会及び商工業部会での審議を経て、知事に答申を行うこととなりますので、活発な議論をお願ひいたします。

それでは事務局から、諮問内容等について説明をお願ひいたします。

■観光戦略課 川部課長

観光戦略課の川部でございます。私の方から、議事の第6みやぎ観光戦略プランの策定につきまして、御説明させていただきたいと思ひます。恐れ入りますが、着座にて御説明いたします。

それではお配りしております資料に基づきまして、御説明をさせていただければと思ひます。まず、右肩に資料と書いてあるものでございます。一枚おめくりいただきましてそちらの資料の1ページでございます。

1ページの「1 御議論いただきたいポイント」を御覧ください。

本日は「(1) 第5期みやぎ観光戦略プランの現状と課題」について、令和5年度までの取組状況や数値目標の達成状況などを御説明させていただきます。次に「(2) 第6期みやぎ観光戦略プランの骨子案」につきまして、本県の観光の現状、課題を踏まえた、今後の目指すべき姿などを御説明させていただき、御意見を伺いたいと考えてございます。

続きまして、1ページおめくりいただきまして2ページを御覧ください。

今後のスケジュールでございます。次期の6期プランは、令和7年4月から開始となりますため、今年度中に骨子案から最終案までの審議を行ひまして、年明け3月に6期プランを決定したいと考えてございます。資料中段、「産業振興審議会」の部分をお願ひください。

本日は6期プランの骨子案につきまして、皆様方に御意見をいただきたいと考えてございます。本日の産業振興審議会の議論と並行いたしまして、観光関係事業者や有識者などで構成いたします。「宮城観光振興会議」での議論や、パブリックコメントを経まして、

幅広く、御意見を伺ってまいりたいと考えてございます。

委員の皆様方におかれましては、御多忙のところと存じますが、御協力を賜りますようによろしくお願いいたします。

続きまして一枚おめくりをいただきまして、3ページでございます。こちらからA3の資料になってございます。

第5期みやぎ観光戦略プランの現状と課題につきまして御説明をさせていただきます。

こちらの資料は、現行の5期プランの計画期間における県の観光の取組を取りまとめた資料でございます。

資料左上に記載の「1 第5期宮城観光戦略プランの概要」の「(2) 計画期間」でございますが、令和4年10月から令和7年3月までの2年半の計画期間となっております。この間コロナ禍で落ち込んだ観光需要の回復と、その後の成長につなげるための取組を行ってきたところでございます。

具体的な取組につきましては、資料左側中段以降に、5つの観光戦略プロジェクトごとに記載をさせていただいております。本日は主な取組を御説明させていただきます。

はじめに、回復戦略、紫色の部分になりますが、そちらを御覧ください。

宿泊需要喚起策といたしまして、県民割や、全国旅行支援を実施し、約269万人泊の宿泊につなげたほか、宿泊施設に感染症予防にかかる普及啓発チラシを配布して感染予防対策の徹底を図りました。

次に、資料右上の「成長戦略 2」、オレンジ色の部分になりますけれども、そちらを御覧ください。

鳴子温泉郷において、観光産業の体制強化を図るために、観光地の面的な再生・高付加価値化を目的とした施設改修を支援し、収益力向上に繋げてございます。

次に右下「成長戦略 4」青色の部分でございますが、そちらを御覧ください。

宮城オルレの推進につきましては、令和5年11月11日に県内5コース目となる村田コースを開設し、歴史が色濃く残る蔵の町並みと、雄大な蔵王連峰を望む自然豊かな里山を楽しんでいただくなど、宮城ならではの観光コンテンツの造成に取り組んだところでございます。

宮城オルレにつきましては、宮城県の魅力ある観光コンテンツの一つといたしまして、更なる利用者の増加に向けて、地域の特色を生かした、新規コースの造成に取り組んでいくところでございます。

次に資料の4ページを御覧ください。「2 数値目標の達成状況」につきまして御説明をいたします。

令和5年の数値につきましては、表の中の「速報値(R5)」の欄を御覧ください。

赤枠で囲んでおります、外国人観光客宿泊者数につきましては、令和5年は51.5万人泊となりまして、令和元年水準を目標とする、回復目標を一年前倒して達成してございます。

また、宿泊観光客数および観光消費額につきましても、回復目標と同水準まで回復しております。今年度は5期プランの最終年度に当たりますことから、成長目標の達成やポストコロナにおける観光地としての競争力を高めるために、観光地の受入れ環境整備のほか、市町村や関係団体と連携した誘客プロモーション等の施策を着実に実施し、さらなる誘客促進を図ってまいりたいと考えてございます。

次に「3 本県の観光の現状・課題」を御覧ください。観光統計等を踏まえ、現状や課題を整理したものになってございます。

まず、「現状課題①」緑色で着色している部分でございますが、現状から①といたしまして、宿泊観光客数が圏域によって回復に差が生じていることが挙げられます。先ほど御説明いたしました、令和5年の宿泊観光客数は943万人泊となり、令和元年比で約95.3%まで回復いたしました。

圏域別では、石巻圏域が110.5%と、令和元年を超える圏域があった一方で、大崎

圏域が70.1%、栗原圏域が81.8%となっており、地域ごとに回復状況に差が生じている状況でございます。

続いて資料右上の方を御覧下さい。

「現状課題②」といたしまして、宿泊観光客数は全国的に地方部で回復が遅れていることが挙げられます。

観光庁調査によりますと、昨年の宿泊者数の令和元年比は、観光のゴールデンルートであります東京都が約126%、大阪府が約107%、京都府が約105%となりまして、令和元年を上回っている一方、宮城県は約92%、東北は約86%と、地方部で回復が遅れが生じている現状でございます。

次に「現状課題③」を御覧ください。

県の調査によりますと、宮城県を訪れる旅行者の73%は日帰り観光であり、宿泊観光が少ない状況でございます。また県内に宿泊した場合も、1泊が77%、2泊が18%と、短期間の滞在が多い状況でございます。

次に、「現状課題④」を御覧下さい。

コロナ禍を踏まえまして、今後の観光施策を考える上で、必要となる課題について整理したものでございます。特に左側の人手不足の加速化につきましては、宿泊事業者の方々から、スタッフの確保に苦慮しており、全室を稼働できていないというお話をお伺いしており、喫緊の課題であるというふうに認識してございます。

続きまして5ページを御覧下さい。

第6期みやぎ観光戦略プランの骨子案につきまして、御説明をさせていただきます。

はじめに資料左上の「(1) 計画策定の趣旨」を御覧下さい。

先ほど御説明いたしましたが、コロナ禍で大幅に落ち込んだ観光需要が回復傾向にある一方、圏域別では宿泊観光客数が令和元年と比較し、約7割から8割程度までしか回復していない圏域があるなど、宮城県全体への誘客に加えまして、県内隅々までの周遊促進の課題であるというふうに考えております。

そのため、行政や観光事業者の連携に加えまして、県民の方々からの御協力を得ながら、県民総参加による、魅力あふれる観光地づくりを推進していく必要があると考えてございます。

次に「(2) 計画期間」についてでございますが、令和7年4月から令和10年3月までの3年を予定してございます。

計画期間の考え方につきましては、みやぎ観光戦略プランは「新・宮城の将来ビジョン」に掲げる分野別計画でありますことから、ビジョン実施計画の中期計画期間に合わせるものでございます。

次に「(3) 数値目標」についてでございますが、具体的な数値につきましては、今後設定をさせていただくことにしておりまして、本日はその設定方針を御説明いたします。

まず方針1といたしましては、5期プランで定めた3つの指標であります。宿泊観光客数、外国人観光客宿泊者数、観光消費額について引き続き目標指標とし、その中でも、宿泊観光客数の増加に、重点を置きたいというふうに考えております。

方針2としましては、宿泊観光客数が圏域ごとに回復率に差が生じている状況を踏まえまして、県全体の目標値に加えまして、圏域別の目標値を設定したいというふうに考えてございます。

方針3としましては、新たな指標としまして、観光消費額単価を検討してまいりたいと考えてございます。観光消費額の向上に当たっては、県内での滞在時間増加、消費額単価が高い宿泊者数の増加や、インバウンドを始めとした高付加価値、旅行者の誘客強化など、さまざまな切り口での取組を検討する必要がありますが、観光庁が定めます「観光立国推進基本計画」においても、質の向上を強調し、消費額単価を目標値に設定しておりますことから、6期プランにおいても新たに設定したいと考えてございます。

次に「（４）取組の方向性と主な施策」について御説明をいたします。

６期プランでは、宿泊観光客数の増加に向けまして、重点的に取り組むこととし、誘客促進に向け強化すべき施策に対しては、既存事業の組替や予算配分の見直しに加え、持続的かつ安定的な財源として、宿泊税の導入活用を検討してまいりたいと考えてございます。

次に資料右上の、基本理念の部分をご覧ください。

基本理念といたしまして、「地域が主役となる持続可能な観光地域づくり」を掲げ３年後の本県の観光が目指すべき姿として、４点を掲げてございます。キーワードを申し上げますと、一つ目が「県内の隅々まで観光客が訪れる観光地」、二つ目が「観光産業の持続的な発展」、三つ目が「何度も選ばれる観光地」、四つ目が「国内外から選ばれる観光地」を目指していきたいというふうに考えてございます。

次に下段のフロー図を御覧ください。

先に資料の４ページで御説明いたしました、本県観光の現状課題を踏まえ、取組の方向性と主な施策イメージを整理したものでございます。

「取組の方向性 １」として、新規顧客の獲得や、リピーターの増加を目指すこととし、そのための施策として、右側の「戦略１ 魅力ある観光資源の創出」に基づき、地域ならではの観光コンテンツの造成に加え、ストーリー性やテーマ性を生かして、観光地間でのさらなる連携強化を図ってまいりたいと考えております。

「取組の方向性 ２」としまして、地域経済の活性化や担い手の確保を目指し、「戦略２ 観光産業の活性化」に基づき、観光産業における収益力強化等の稼ぐ力の向上や、持続可能な観光地域づくりに向け、観光人材の育成確保や観光地域づくりを担う多様な実施主体の連携体制を深めるなど、推進体制の充実を図ってまいりたいと考えてございます。

次に「取組の方向性 ３」としまして、ホスピタリティの向上を目指し、「戦略３ 観光客受入環境整備の充実」に基づき、快適、安全、安心をキーワードに、観光地における受入態勢強化を図ってまいりたいと考えてございます。

最後に「取組の方向性 ４」といたしまして、戦略的な情報発信を目指し、「戦略４ 国内外との交流拡大の促進」に基づき、ターゲット国を絞ったプロモーションの強化や教育旅行などを通して、宮城の魅力を効果的に発信し、さらなる誘客促進を図ってまいりたいというふうに考えてございます。

続きまして、一枚おめくりいただきまして、６ページを御覧下さい。

観光戦略プロジェクトの１から４につきまして、それぞれの、主な施策のイメージを整理したものでございます。本日は、その主なものを御説明させていただきます。

はじめに、「戦略１ 魅力ある観光資源の創出」につきましては、「施策１－１ 地域資源を活用した地域ならではの観光コンテンツの造成」の、主な施策イメージといたしまして、１の「市町村の観光地域づくりに向けた支援」や、３の「宮城オルレ新規コース造成」などの、地域資源の磨き上げを通して、広域周遊促進を図ってまいりたいというふうに考えてございます。

次に「戦略２ 観光産業の活性化」につきましては、「施策２－１ 観光産業における稼ぐ力の向上」の主な施策イメージといたしまして、１の「DMO支援」を通して、観光地域づくりの司令塔を育成・強化するとともに、２の「人材マッチングや定着支援」により喫緊の課題であります、人手不足の解消に向けた取組を行ってまいりたいと考えてございます。

次に「戦略３ 観光客受入環境整備の充実」につきましては、「施策３－１ 快適な旅行環境の整備促進」の主な施策イメージといたしまして、１の「滞在期間中の利便性向上に向けた支援」や「施策３－２ 安全・安心な旅行環境の整備促進」の主な施策イメージといたしまして、「１の自然公園施設整備」を通して、宮城県内の滞在期間中の利便性向上や、安全・安心な旅行環境の整備を図ってまいりたいと考えてございます。

最後に、「戦略４ 国内外との交流拡大の促進」につきましては、「施策４－２ 教育旅行をはじめとしたツーウェイツーリズムの強化」の主な施策イメージといたしまして、１

の「県内観光地への教育旅行誘致強化」や、2の「特定目的旅行」を指す「SIT」を意識した、ターゲット国の関心を引く観光コンテンツの提供としまして、双方向での交流機会を創出し、さらなる県内への誘客促進の足がかりとなるように取組を推進してまいりたいと考えてございます。

資料の説明は以上になります。本日の議論のポイントにつきましては、先ほど1ページで御説明をさせていただきましたが、もう一度確認をさせていただきたいと思いますので、1ページの方にお戻りください。1ページ目でございます。

一点目でございますが、本県の観光の現状、課題に対する認識につきまして、御意見等がございましたら、よろしくお願ひしたいと思ひます。

二つ目は、本県の観光が目指すべき姿や観光戦略プロジェクトについて、今後3年間で重点的に取り組むべき内容となりますので、御意見をお願ひできればというふうに考えてございます。

三つ目は、数値目標の設定方針についてでございます。具体的な数値につきましては、中間案以降でお示しをする予定でございますが、本日御説明いたしました設定方針に御意見があれば、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上、本日の議論のポイントを挙げさせていただきましたが、これ以外の視点でも構いませんので、委員の皆様方からの忌憚のない御意見をお願ひできればと思ひます。私からの説明は以上でございます。

■内田会長

どうもありがとうございます。今日は時間が十分ありますので、もし御意見等がございましたら是非よろしくお願ひしたいと思ひます。

まずは、本日所用のために欠席された高橋智子委員は、本件について審議する商工業部に所属されておりますが、事務局において、事前に御意見を頂戴していれば、報告をお願ひしたいと思ひますが、よろしいでしょうか。

■富県宮城推進室 齋藤室長

それでは御紹介させていただきます。富県宮城推進室でございます。

高橋智子委員からいただいた御意見を議論の取り掛かりということで御紹介させていただきます。

4点御意見頂戴しておりました。1点目、人手不足解消には若い世代の人材育成、確保が必要。ガイド的な人材が多い地域は強い。語学学習などの人材育成のためのプログラムを充実させるなどしながらアプローチしていく必要がある。

2点目、滞在客を増やしていくためには、長期効果が大きいイベントやスポーツ大会、プロスポーツの応援、学会などで訪れた客を宿泊につなげるための仕掛けが重要であり、関係者間の情報共有を密にして宮城県の魅力を発信し、地方への誘客を図ることが必要である。キャンペーンよりも具体的な誘客の取組が大事。

3点目、二次交通の充実が課題。秋保地区でもタクシーが不足しており、観光地までの足が不足しています。関西地方に比べ東北は交通情報の案内機能が弱い。

4点目、それらの取組などにより、エリアとして宿泊単価、滞在にかかる経費を上げていかなければならない。そのことが雇用の面でもプラスになる。

以上4点の御意見を頂戴しておりましたので御紹介いたしました。よろしくお願ひいたします。

■内田会長

どうもありがとうございます。すいません、順番間違えていました。本当はまず皆さんの御意見を先に伺わなきゃいけないところを失礼いたしました。先ほど事務局から御説明がありましたけれども、説明内容や資料について、皆様から御質問や御意見をお伺

いしたいと思っております。

初めに対面で参加されているここにいる皆様の御質問をお伺いしたいと思っております。いかがでございましょうか？

■笠間委員

委員の笠間です。よろしくお願ひいたします。

A3の資料の現状の課題の②というところですけども、観光の現状と課題という中で、石巻圏域以外は回復していないという話でしたが、逆に石巻だけが突出して増えています。理由など何か把握されていたら、教えてください。

■内田会長

事務局、お願いします。

■観光戦略課 川部課長

御質問ありがとうございます。

石巻の110.5%という状況につきましてでございますが、まずは、昨年、石巻の川開き祭りが100回目の記念のお祭りということで、かなり多くのお客様がお見えになっていただいたという状況がまずございます。もう一点といたしまして、スポーツイベント、具体的にはソフトボールの全国大会があったと聞いてございまして、そういったところも、数値の押し上げの要因になっているかと思えます。あと、地域の特殊事情といたしまして、女川原発の再稼働に向けて、作業員の方が石巻地域に入っておられるという状況もありまして、そういったところで、石巻の数値が他の地域よりも良くなっているという状況を確認してございます。

■笠間委員

ありがとうございます。

■内田会長

私も質問がございまして、4ページの右の上の方で、いわゆる京都や東京と、宮城県を比較していますが、確かに京都に比べると、京都が3,000万、宮城県が1,000万ぐらいで、3分の1ですね。実は大昔のことを記憶から考えると、京都の方が圧倒的に多くて、宮城県はそれよりも10分の1以下ではるかに少ないと感じていました。これを見ると3分の1ぐらいで逆に宮城県も結構な数だと思っぴっくりしております。これは昔に比べて宮城県が数年とか10年ぐらいではかなり上がってきてるものではないでしょうか。3分の1というのは意外に相対的には多いように感じております。

■経済商工観光部 梶村部長

これにつきましては、資料にございますが、下の実績値として令和元年の989万人泊というのがございます。これが非常に伸びた点になってございまして、その前は内田会長がおっしゃっておりますが、700万人台とか800万人台というような非常に厳しい状況でした。それが東日本大震災の時です。そのぐらいに落ちましたが、そこからなんとか頑張ろうということで、特に沿岸部に宿泊者を戻そうということで様々な県の支援を行いながら、交流施設、それから宿泊施設を整備しながら、令和元年が989万人までいったということです。これをそのまま順調に伸ばそうと考えていたところで、新型コロナウイルス感染症がきたものですので、今、若干落ちているということです。内田会長の御指摘のように、以前はこれよりは200万ぐらいは低かったというような状況だと思います。

■内田会長

そうですか、いずれにしてもこういうところからいくと、宮城県も今後頑張ればかなり、京都と比較で良いところまで行けそうな気がしますので、是非よろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございます。その他ございますか。

■高橋（昌）委員

委員の高橋です。みやぎ観光戦略プランの現状と課題の3ページ目に鳴子温泉の事例が書いてありまして、和室を洋室に変えたら良かったんだということがありますが、この良かった数字っていうのは、4ページ書いてある外国人観光客の数字に該当するのかなと解釈しています。この鳴子温泉に対して、洋室に変えた実際の数字がどのくらい上がったのか分かると、これを事例として、同業者の方が洋室に変えたほうがいいんだなと分かるので、その辺りの数字を明確にして好事例として提示したほうが良かったと思ひます。

それから、観光プランの中にコロナ、ポストコロナの記述が多く出てきていますが、2～3年前にコロナが流行し、コロナ対策を県と一緒にいき、支援をしていただき、業界がけっこう助かりました。ここで御礼を言うのもおかしいですが、ありがとうございます。それでコロナが発生して、どうしようかということになり、PCR検査を県で一生懸命やっけていただき、対策の結果、様々な分野で進んだこともありました。今後また発生する可能性もありますし、変異株のKP.3も流行っていると聞いています。次の段階として感染した人のPCR検査など県の対策が充実していましたが、これからは個人のPCR検査ではなく、施設ごとのPCR検査のように進んだほうがいいと思ひます。そうしますと宮城県内の施設を定期的に検査することにより、宮城県は安全だと、安心して観光に来てくださいとアピールになると思ひますし、その辺をこの中にも入れて、コロナが大変だという割にコロナの対策が書いていない、パンフレットだけで終わっていますので、安全な県ですとアピールする施策をしたほうがいいと思ひます。

施設のPCR検査についても、大学で実験していき、秋に発表する話を聞いておられますので、詳しい話はできませんが、施設の安全性を担保できる1つの方法だと思ひます。

最後に、5ページ目に基本的な理念が書いてあり、その下に主な施策イメージがありますが、こんなことをしますよとイメージできますが、具体的にどんなことをするのか事例や具体的な方法を書いたほうが実施する方がやりやすいと思ひました。以上です。

■内田会長

事務局の方、何かありますか。

■観光戦略課 川部課長

1点目にいただきました鳴子温泉の高付加価値化の改修につきまして、今写真で載せておりますお宿の改修後の状況でございますが、まず改修した客室の宿泊料の単価が約30%上がってございます。具体的には14,000円台から18,000円台に上がってございます。売上につきましては、改修前から60%以上アップしているという状況でございます。この効果もありまして、インバウンドのお客様もお泊まりになっていくという状況でございます。

3点目の具体的なその事業のイメージと言ひますか、そういったところは御意見も踏まえまして、中間案に向けまして、少し具体的にお見せできるようにして、提供させていただきたいと思ひます。

■内田会長

よろしいでしょうか。では、その他ございませうか。

■木島委員

東北大学の木島です。私は林業水産分野ですが、このSNSの発信にしても、観光にして

も必ず出てくるのが地域の食のことだと思います。その食との関係があまり見られないような気がします。それをどういう位置付けにするのか、同時に地球温暖化や海水温の上昇によりかなり獲れているものが違っている。これまでの観光ということでホヤがいいとやっていると、これからは弱いのではないか、新しい宮城の食というものを少し考えながら進める必要があるのではないかなと思いました。

■内田会長

はい。ありがとうございました。ほかにありますでしょうか。

■水野委員

水野でございます。先生から食の話がありましたが、食のレベルでその観光地のレベルが決まる。旅行する理由のベスト3に必ず食が入っています。それなのにこれに食が入っていない。宮城県は食材のレベルが高いという自負がありますからそこをもっと入れていかなくてはいけないと思います。

それから他の観光地との比較ですが、極端に宮城県が少ないですが、なぜ少ないかという関連性がない。例えば京都に行けば大阪に行く、東京の次に京都に行く、だいたい外国の方は東京京都間くらいの移動は普通にします。日本の観光のルートの中に宮城県をどうやって入れていくのか、魅力をどうやって伝えていくのかという点について考えていかなければいけないのではないかと考えています。

それから、旅館に関するのですが、2部屋あったものを1部屋露天風呂付きにして、料金を2名で20万円とか高額に設定する、宮城県内でも1泊10万円以上の部屋はけっこう予約が埋まっています。安い部屋のほうが空いているということです。泊まる方のレベルもいろいろですので、ターゲットは1つではないと考えています。

人手不足の件は非常に心配しています。塩竈市の去年生まれた子供の数は236人なんです。5万2千人の街の子どもが236人しかいない、白石市は100人しか生まれていないという現状があります。村田町は四十何人しか生まれていないです。丸森町は26人しか生まれていないという話を聞いて、この数字をもう一度見ていただきたい。今、働いている人達が子供の時より30%以上も落ちていて、今でも人手不足なのに、この子供達が働く頃にはもうどうなっているか。塩竈市では1日に1人生まれていないんですよ。私がこのことを初めて心配した頃は、15年前くらいですが、その時で300人以上生まれていました。観光プランの中でも価値を上げていかなくてはいけない。私も会社を経営していますから、給与を上げなくてはいけない、休みも多くしなくてはいけない、労働自体の体質を変えなくてはいけない、労働の体質を変えということは、出来上がる商品の性質も変えて高付加価値を付けないと、変化のひずみを埋めることができないということです。台湾からたくさんのお客さんが来ても、引き受けることができる事業者がないということになってしまう。今、塩竈市はピーク時にタクシーがないです。石巻市でもタクシーがないです。なぜ、少なくなったかということ、年金世代の人達がコロナ後に辞めてしまったからです。人手不足の問題も深く県で調査をして、20年後の労働人口がいくらになるのか考えていただきたいです。それとお客さんも減るということです。私の会社では販路を都会に変えています。都会のほうが高い商品が売れる、品質の良さを理解してくれますし、年収も都会が高いです。ですので、ターゲットが多様になっていますので、プランも多様性を持って考えていかなくてはいけないと思います。では宮城県の素質はどのようなかということ、宮城県は贅沢な県というか、素質がとても高くて、海に恵まれていますし、空港もありますし、新幹線も通っていますし、悪いところがほとんどないです。雪も降る、海水浴場もある、釣りもできる、キャンプもできる、なんでもできると思います。仙台から車で15分にスキー場とゴルフ場があるのは仙台くらいだと思います。宮城県を分解してみて、遊びのテーマを掘り返してみるべきなのかなと思いました。長くなりました。

■内田会長

ありがとうございました。事務局から何かありますか。

■経済商工観光部 梶村部長

大きく3点ご意見がありました。1点目ですが、観光でも食の利活用につきまして、木島先生から御指摘もありましたが、我々も非常に大事だと考えておまして、施策を考えてございます。特に地域の食材を使って、今も宿泊施設では使っていますが、宿泊分離も考えながら、地域の飲食店でも活用していただくことによって、地域の経済の活性化に繋げていきたいと思っております。委員からいただきました視点は今回のプランに必ず生かしていきたいと思っております。

2点目が全国的な観光地のゴールデンルート、三大都市圏にだけ集中すると言われておりますが、有名な観光地に集中して、周遊されないということですが、最近ですと、東京には飽きたという外国人の方がおりますが、どこの国の観光会社の方と話をしましても、宮城県の場合は東京とセットでないとダメだと言われます。東京に来て、そこから90分という距離、時間で何かできるのかということアピールしないといけないと思っております。最初から宮城県では誰も来ないですよという話をいただいておりますので、東京とセットで東北観光推進機構と連携して東京から来て、宮城から東北を周遊する施策を考えております。山形県の銀山温泉などの地域のキラコンテンツを使いながら周遊するような施策を考えていかなくてはいけないと思っております。

最後に人手不足ですが、生産人口も含めて本当に人口が減少しておりますが、村井県政で最大の危機感を持って取り組んでおり、様々な対策を行っております。

今、出生者数が少ないので、ある程度外国人材の活用には舵を切る必要もありまして、今年インドネシアに知事が先頭に立って県内企業50社ほど一緒に行きました。製造業、建築業、宿泊業、介護事業の方々と一緒に行きまして、インドネシアの方は親日の方が多いので、現地で500名から600名くらいの学生とその場でマッチングを行い、宮城県での就労を外国人の方に担っていただくということも含めて、全庁を挙げて人材不足に対する施策を考えております。

■内田会長

はい、よろしいでしょうか。ほかにございますか。

■水野委員

技能実習生の制度を国が変えるときに、ショックだったのは、技能実習生をいじめたとか、安く使ったとか、逃げたとかそういったニュースを全国的にやっておりました。そういったことは本当に昔のことで、今そういったことを行っているところはないです。新聞社で特集を行うと来たときも言いましたが、宮城県であったことではないのになぜだと思いましたが。その裏には自動車産業に促す流れがあるのかなと思っております。うちで実習した方達は、その後は自動車産業に行きます。時給が1,600円、夜間は2,500円です。広島県まで行きます。我々のところで学んだのに、彼は転職になるので、その後は帰国することになります。自動車産業や半導体産業に行ってしまう。自動車産業だと寮もありますし、待遇面でも勝てないです。水産業は忙しい時期がありますが、自動車産業とかは忙しい時期がなく、同じ業務量ですよ。

実習生制度の運用がとても難しくなっているということと、円安ですので日本に来る人が少なくなっているのも事実ですので、そういったことも絡めていただけないかなと思っております。水産業加工業に来る人はいないです。うちの会社は水野水産ですけど、会社名の水産を取った方がいいですよと言われるほど仕事を選ばれてしまうという現状があります。

■内田会長

ほかにありますでしょうか。

■関委員

関と申します。よろしく申し上げます。

最初に梶村部長からアイデアもぜひと言っていたので、意見とアイデアを言わせていただきます。

現状と課題②の4ページのところを拝見しまして、右側の真ん中の黄緑の塗りつぶしのところですが、これは果たして課題なのだろうかと思いました。たしかに、日帰りですと消費金額は少ないですし、宿泊と比べて単価は低いと思いますが、仙台は東北の中心ですし、足腰が弱い高齢者の方が旅行したいといったときに、物理的な距離を考えたときには移動の限界があると思います。家族三世代で旅行するときのターゲットエリアとなると東北各県の方が宮城県に来るとデータとかに出てきているので、仙台は東北のお客様をターゲットとするということは誇らしく、より強化していく方向性もあるのではないのでしょうか。ファミリー世代もそれぞれ子どもたちが育ってくると、時間がなかなか合わなくて、何泊もすることが難しいですし、それぞれ個人主義が多いので、その中で1泊をすることすら価値がある。となると、その忙しい人達が隙間時間を観光に充ててくれて、その場所を仙台に選んでくれると考えると、ここを捨てるべきではなく、より強化して行って、消費額やリピート率を上げていくということも、宮城県の観光の側面だと考えていいのではないかと思います。やはり一組から高額な観光費を取るということは、接触機会が少ない中ではいいと思うのですが、生涯で関わって落としてくれる総金額を考えると、近隣のファミリーは絶対に捨てるはいけないと思っています。持ちつ持たれつですが、東北の観光に関わっている行政のみなさんが地道に道の駅などで自県のPRを行っている成果が結んでいるのではないかと思います。気軽に行ける旅行というのも残しておくべきではないかなと考えます。これは課題でもあり、チャンスでもあるというのが1点目です。

2点目が6ページのところで、次の6期分に入ってしまうので、少し早いかもかもしれませんが、先ほど部長からも、ほかの国と行ったり来たりという話がありました。海外のデザイナーさんと一緒に商品開発やコラボ、お土産開発などする際の話をしていただきます。インバウンドで海外からお客様が宮城に来たときにどういったものをお土産として欲しいのかを、海外の方にアドバイスをもらったり、JETROさんにサポートしてもらおうという仕事をしたことがあるのですが、そこで何が1番助かるかという、現地にいる日本人スタッフの有無がビジネスの成功に影響します。どんなに言語に長けている人でも文化、商習慣、それから消費心理というものを両方の国の合間を取ってくれるのか、つまりはスペシャリティーなコーディネーターがいるかないかでビジネスの成立が全く違ってきますし、先を見たときにこういうことはしない方がいいよとかもアドバイスを貰えます。

持続可能な観光を考えるのであれば、国を絞るという話がありましたので、両国共同で人材育成をした方がいいかなと思いました。例えばインドネシアの話がありましたが、日本の学生さんが現地に2～3年行き、交換留学のような形でインドネシアの学生さんに宮城に来てもらい、中にはそのまま長く滞在するという形にすれば、その人達の中だけでもノウハウがとても共有されて、第1期生、第2期生というように代を重ねて派遣していく。人に張り付くとビジネスにはならないので、長い時間をかけて仕組み化していく。少ない人数でいいので、国を絞って、両国間共同のコーディネーター育成をしていくと、第6期プランの戦略2にもありましたが、海外から来たときに、日本の方にいっちゃいと言われるより、同じ外国の方にこの国とてもいい国だよと言われるのでは、説得力の違いがあると思います。

今は、グローバル社会ですので、両国共同で人材育成を行っていくという尖った戦略をしていくことが、育成するという本当の意味で、各国にその人達が戻った後も代々後輩たちが引き継いでいくということになると思いますし、地域に1名くらいそういった人がい

ればいいので、何百人という単位ではなく、モデルケースとして、早いうちに自治体として先行的にやってみるといえることができればいいのではないかと思います。人材育成というか相手を尊重するということにも繋がっていくと思います。

3点目は、高橋委員と同じなのですが、施策3の安心安全というところですが、施策には書いていなくても、もしかしたら入っているのかもしれないですが、やはり旅行ですごく困るのは、高齢者と小さい子は体調を崩すことや持病を持っている人、海外の人は言葉が分からない中で病気になること、普段起こらないことが旅の中で起こるといえることが怖いことだと思います。病気になった時の対応を強化する研修や体制整備、万が一のことがあった時の緊急対応を県全体で行いますということや宿泊事業者さんに共有すると、安心していただけるのではないかなと思います。宿泊税の議論を同時に行っていくと思いますので、泊まるということはその間、命をそこに預けるということだと思えるので、そういった意味でも安心安全の提供に関して、東日本大震災を経て復活した県として率先してやっていただきたいという希望です。

■内田会長

ありがとうございました。事務局から何かありますか。

■経済商工観光部 梶村部長

今、関委員、それから高橋知子委員からもありましたので、ガイド的な人材の育成ですが、宮城県でも考えておられて、南三陸町の観光協会に以前台湾出身の方がおられて、台湾からの受入で、台湾の方の気持ちも理解しながら対応しながらも、台湾から来た人に南三陸町の良いところを見せたいと、非常にお互いを熟知しながら考えてくれています。いまだに南三陸町は台湾からの旅行者が多いです。そういった状況もございますので、観光人材の育成、確保を継続してですが、関委員からもご指摘いただきましたので、継続して力を入れていきたいと思っております。

■内田会長

ほかにございますか。お願いします。

■青木委員

こういったプランって、メディアの一種だと思っております。県民の皆さんにどう伝えるかということです。メディアの一種だと考えたときに、私も地元の人間なので自慢したいです。宮城県はこれがすごいんだよと言いたいですけど、例えば、先ほどの政策イメージで地域ならはとか、快適な観光とか書かれていることがどこの県でも同じだと思います。知事などはメッセージ性があるのですが、ずばっと言うことが必要だと思います。県民でもいいのですが、尖ったキーワードなど若干物議を醸し出すかもしれないですけど、勇気を持って入れていただきたいと思います。何か分野を絞ってもいいので、食とか、食だけだと不公平だとか考えるので、どんどん丸くなったプランになってしまうが、何か自慢したいなと思います。これはメディアなので、公表して終わりではなく、メッセージ性を上げていただくのが、言葉に魅力を持たせるというように何か踏み込んでいただきたいなというのが1点目です。

次にこれは県の皆さんには厳しいとは思いますが、先ほど内田先生や他の委員も話していましたが、京都と比べて3分の1なんですよね。47都道府県でほぼ同じことを行っていて、日本の公共団体はあまり自治を持っていないというのがありますが、自治省の関係でガバナンスが効いているからだと思いますが、同じようなプランを作って、こういった会議をしているわけですから。そこまで標準化させて行っているのであれば、県民としてはうちの県は何が進んでいるのかと思うわけですから。ほかの県と比べるのがいいということではないですが、京都と比べてどうなのかとか、広島と比べたらどうなのかとか、県庁の

人は本当に頑張ってくれていると思うので、そういう意味でいうと数値目標でいいですけど、日本のこういう位置に宮城県は位置付けられていて、こういったところは弱いけど、こういったところは強味があって、こうだっという自慢になるところが欲しいわけです。できない事があってもいいので、強味、自慢になるところを打ち出していきたいです。ちなみに東北大学も7大学の中ではとか、85大学の中ではとかほかの大学と比べて、うちの大学のいいところを経営の面では打ち出しているの、県でもそこを上手くやっていただけると県民として、住んでいて良いところがあるのだなと自慢できるところがあるといいなと思いました。それから、尖ったというところでは、部長からも話があった、台湾とか半導体とかメッセージが出てきていたり、あるいは原発の再稼働で産業のなんとかとか、仙台では許されるのであれば、東北大学が日本で初の国際卓越研究大学になるとか、大学では年間130億で人を雇いますから、海外から多くの人々が来ます。そういった打ち出せるものは打ち出していくということがあればいいのではないかと思います。一県民として興味深く見ていきたいと思っております。

■経済商工観光部 梶村部長

青木委員からメッセージ性ということ、最後にいろいろな宮城の地域資源についてアピールする場という話でしたが、実は、一昨日東京で企業立地セミナーを行ってきました。300社弱の企業がいらっやって、その場で宮城県をアピールするのですが、我々がアピールするのは、人材がたくさんいること、特に東北大学が国際卓越研究大学に指定されていますことやナノテラスが運用を開始し、そこで技術の高い研究ができますから、これからもっと優秀な人材が集まってきますので、宮城県っていうのはこういうことができるという観点があります。そういう観点は実は観光面で一回も使った時はないんですけども、今御指摘になったように、宮城県がじゃあどうやってエッジを立てるかっていう観点でいろいろ考えてみたいなと思っております。

あと、観光のキャッチフレーズですけども、皆様も頭の中にあるかわかりませんが、今のキャッチフレーズは「笑顔咲くたび伊達な旅」というキャッシュフレーズです。これが昔のデスティネーションキャンペーンをやった時から10年以上変わってないものですから、実は今、やはりそのエッジを立てようということで、今年度中に新しいキャンペーンを作ろうとしております。どこまでエッジを立てられるか難しいかもしれませんが、新しいものにしたいと思っております。個人的には昔、宮城県の観光キャッチフレーズが「青葉かおる宮城」というキャッチフレーズなんか作って、それなりにエッジが立ったというイメージがあるものですから、今の青木委員の話を踏まえて、メッセージ性を強化してまいりたいと思っております。

■内田会長

よろしいですか。その他にながございますか。はい。お願いします。

■佐藤（万）委員

私も4ページの、現状・課題③日帰り・宿泊数について、教えていただきたいのは、今、仙台は支店が閉鎖して東京から日帰りとか1泊で来る出張者の数が多いと思いますが、その数もこの中に入っているかということです。この旅行形態や宿泊数と同様に、その宿泊した人たちの年齢をグラフで見ると、何のために来ているのかということが、その年齢から分かるのではないかと思いますので、そのような資料も御用意いただきたいと思っております。あと、今後の戦略について、高橋委員と一緒に具体的なものが必要なかと思っております。ある統計を見たら、宮城県は元々、秋の紅葉の時とかお客様が多いというふうに言われるのですが、その秋よりも1月、2月の方が宿泊や訪問する数が多かったという資料を見て、それはやっぱり冬の間、雪とかそういうものを宮城に求めていらっやる方が多いのではないかと思いますので、その月によってどこをターゲットにするとか、どういうことを魅

力として発信するかということを決めていくのも一つではないかなと思います。

私、今年1月から3月まで結構北陸新幹線を利用しましたが、本当に新幹線の一両がほとんど外国人だったという体験を何回もしまして、スノーボードとか、皆さん大きな荷物を持って、ニュージーランドとかオーストラリアから来ている方達がいまして。それに比べて、東北新幹線では、そういった旅行者の方を見なかったのが残念だなと思います。そのところをもっとPRするべきかなと思います。

あと、外国人が求める日本のものとして、歴史がすごく重要なポイントだと聞いたこともありますので、今、多賀城がすごくキャッチフレーズとして注目されているので、そういうものと合わせた観光プランみたいなものも具体的に示すということも良いのではないかと思いました。以上です。

■内田会長

はい、ありがとうございます。

■観光戦略課 川部課長

1点目の現状と課題③の部分でのご質問でございました。こちら、ビジネスが入ってるかどうかというところにつきましては、ビジネスも含めた統計というふうになっておりますが、2点目でいただいた年齢構成につきましては、この統計上は、情報としていただいていないという状況でございます。

■笠間委員

再び笠間です。先ほど青木先生から国際卓越研究大学のお話もありましたので、それを受けてということになりますけども、結局、こういった今、宮城県で国際卓越研究大学であるとか、あるいはJSMCの進出だということで、結構外国の方が増えるという状況になると思います。東北大学だと留学生受入を、博士号で800人から2,000人以上にするはずで、全部で多分5,000人以上ですよ。また、数年以内に増えるような形です。

今の宮城県は、確か25,000人ぐらいの外国人の方がいらっしゃるわけですけど、これが急に5,000人増えるわけですね。例えばですが、その人達が、お友達であるとか親を仙台に呼ぶとなるとそれだけで3万泊、2泊していただければ6万泊になるということで、外国人の宿泊観光客数は今50万泊ぐらいなので、あっという間に10%ぐらい増加することになります。

それでこの皮算用にはちゃんと名前がついておりまして、観光学の世界では「VFR」といって、「Visiting friends and relatives」の略です。親族を呼ぶ形態ということになります。これはイギリスですと、だいたいビジネス客よりも割合が多くて、宿泊の3割以上、3分の1が実はVFR観光と言われております。フランスとか、そういったところは観光客がどんどん来てくれるわけですが、イギリスは相対的に言うと観光業がそこまで盛んではないですので、実はVFRという概念が、そういう観光のゴールデンルートではないところでは、非常に重要な政策になると思います。奇しくも宮城県はこれだけ、既に25,000人お住まいになっています。仙台だけでも15,000人以上の方が住んでおりますし、これからまさに東北大学が世界的にさらに、色々な人をどんどん呼ぶようになるわけです。これは留学生だけでなく、もちろん研究者、あるいは職員もどんどん増やしていかなくてはいけないということですので、そういった人たちを起点にして、どんどん VFRを進めていくことが宮城県にとって必要なのではないのでしょうか。

VFRの特徴というのは、観光の1回当たりの消費の単価というのは通常の観光より若干低いですが、一方で、滞在日数が増えるという傾向があります。要は、その親族と一緒に周辺地域も含めて周遊するわけですが、その時の消費の傾向が普段行っているよう

な身近なところに行くことが多く、例えば留学生がいたとすると、いつも通っているラーメン屋に行くよとか、近所のスーパーで何々を買うよということで、商品の幅が広いという特徴があります。1泊とか2泊ではなくて、数日滞在ということなので、実は凄く裾野の広い形態になりますので、恐らくこれだけ条件が揃っていて、残念ながら京都・大阪にはなかなか敵わないということであれば、こういったゴールデンルートではない宮城県としてはVFRも一つ検討してもいいのかなというふうに思いました。これはアイデアということで。以上です。

■経済商工観光部 梶村部長

どうもありがとうございます。留学生の方の活用、人材の活用については、就職も含め、我々も今力を入れているところですが、今お話にあったVFRにつきましては、我々も勉強する必要があります。勉強をさせていただき、今後の交流人口拡大に向けて取り組んでまいりたいと思います。

■笠間委員

ちなみにイギリスですと、大学とかにVFRで来るとなると、その親族とかは寮に泊められるようにするなど、大学が凄く地域貢献ということを考えています。

逆に自治体の方では交通費分のクーポンを、「VFR割」みたいなものだと思うんですが、そういったものをお渡しするなどとして、積極的にどんどん取り込むということをやっています。イギリスの大学ぐらい古く歴史がある所になってくると、大学自体が強大な、もの凄い観光資源になるわけです。それを地域にどんどん流していこうというのが、イギリスとか、オーストラリアとかそういうところで増えているということです。まだ日本でやっているところは多分自治体ではないはずなので、これを宮城県がやると多分すごく話題になると思っております。以上です

■経済商工観光部 梶村部長

村井にも相談しながら、実効性のある施策を打っていきたいと思います。

■内田会長

他にいかがでございましょうか。

■藤野委員

私は県外の人間で、しかも元々の生まれが京都なので、皆さんそんなふうに京都を見ていらっしゃるのかなと思っております。京都の話は後にするにして、全部で3つ伺いたいこと、意見があります。

まず1つ目が、宿泊税の導入を検討されているということで、この資料自体には詳しいことが特段書かれていないのですが、今後、この会議の中で、宿泊税についてはどういう位置付けとして、議論と言いますか、宿泊税の導入をこの会議が決定するのかどうなのかということと、もしくは、その金額について、どこまでこの会議の意見が反映されるのか、その辺り宿泊税関係で、もう少し言うと、情報が入っておりませんので良いも悪いもこの場で初めてこんなことをやるんだくらいに思いました。例えば他県、他都市で宿泊税が実施されていますので、そこでどれぐらい効果があるのか、メリット、デメリットあると思いますので、そういう報告なども出てくると思いますので、そういうのをここで報告いただくと、議論の参考になるのかなと思っています。

あわせて、今回この数値目標として、特に宿泊観光客数というのも入っているのです

が、一般論として宿泊税を取るということは、観光客数が減少する方向に働くと思います。税金取られるから宿泊したいなんていう人は絶対誰もいないわけです。そうすると、この4ページに数値目標、速報値でR5年、目標値でR6年何人と書かれていますが、それがこの第6期だと令和10年まで伸びていくと思います。その時に、現在の線を伸ばしていても宿泊税取るとしたら確実に減るわけです。例えば宿泊税を取らない状態で計画量として、宿泊人数を2倍にしたいですという計画を立てたとしても、宿泊税取るとしたら、2倍までいなくなるはずだと思いますので、そのあたりを県としてどのあたりの数字を考えていらっしゃるのか。この宿泊税の金額次第だと思いますけれども、安い金額で100円程度とってお茶を濁すのか、例えば1,000円ぐらい取っていくのか、財源を取るのでしたら、1,000円ぐらい取らないと財源確保できないと思うんですが、1,000円取ったら宿泊客数が20%、30%減少になっていくと思います。そのあたりの数字のシミュレーションをされていると思いますが、今でなくても結構です、次回以降でそういうのを示していただければと思います。

2つ目ですけれども、どなたかがおっしゃったと思いますが、この骨子案、どこの県に持っていても、全くそのまま通用するような形だと思います。宮城県としてどこに特徴があるのか、尖っている部分があると思いますが、何に力を入れているのかなっていうのが全然見えてこないです。私も水産林業部会の人間ですので、こういう話が出てくる時には、農村のツーリズムですか、林業のツーリズムは登米ぐらいしかやってないと思いますが、農林水産など、他の県ですとフィーチャーしてやっていきますし、国立公園などそういう自然を生かしたものというのが、非常に取りざたされることが多いわけです。では、この宮城県の中で何が一番の観光資源なのか考えていただいた上で、提示していただけるとありがたいと思います。

3つ目が、今のことは観光のコンテンツですが、それに関連して、お客さんをどう捉えるのかっていう、旅行業界だと基本的な分析で出てくるんですね。私も昔、旅行業界でそういう分析していたことがあります。例えば、5枚目の取組の方向性1で新規とリピーターのことが書いてあります。お客さんを分類するひとつの切り口があると思いますけれども、あとどなたかがおっしゃっていたと思いますが、ファミリー層というお話もありました。ファミリー、ビジネス、その他、例えば友達同士とかどれが正解というわけではないですが、この対象とする観光客を細分化していかないと、お客さんにはならない、ヒットしないと。例えば、家族旅行者相手に、超豪華な旅行を提案しても、やっぱり金額的に乗ってこないと思います。それが、説明された資料の中に散りばめられているのですが、散りばめられているがゆえに全体が見えないです。お客さんを100とした時に、例えば3つに分かれますとか言っていただくと、3つあるのかと分かりますし、じゃあその3つ、例えばファミリー層を何パーセント、ビジネスを何パーセントっていうふうに言っていただくと、多分聞いている我々も、お客さんがどれだけ来るのか、どういうところに来るのかというイメージができると思いますので、そういう切り口を分けていただくと非常に良いのかなと思います。

最後に完全に余談ですが、京都は実は宿泊施設が本当に少ないんです。非常に少ないです。みんなどうしてるかっていうと、大阪に泊まる、神戸に泊まる、もしくは滋賀県に泊まるため、京都には全然お金が入ってこないんで、これが非常に問題になっています。ただ最近、例えば星野リゾートなどを始め、もしくは海外資本をはじめとして1泊何十万円というようなホテルがぽつぽつ出てきて、地元の人間的に言うと、あそこにこんな建物がみたいな感じで見ていたりするんですね。なので、観光客数とか、宿泊客数を増やしたいって言うのであれば、京都は参考にしない方がいいかなと思います。かえって大阪を参考にさせていただく方がビジネスも含めて宿泊客の人数は多いかなと思います。私も来週ぐらいに京都に帰りますが、もうインバウンドで人がいっぱいいるよと言われていたので、帰るのが怖いです。

最後に本当に完全な余談ですが、私、県外の人間でこの委員をさせていただいているん

ですけれども、なかなか宮城県の観光ができずにおります。県庁の皆さんでおすすめのところがあれば言っていただけるとありがたいです。日帰りパターンと1泊2日パターンと提示いただくと、事務局の方がどのような思いで計画を策定したのか体感できるかなと思いました。すみません。最後軽い余談みたいな感じになりますけれども、そういうところ言っていただけたら、いいかなと思いました。今日は、仙台七夕を見てから帰ろうと思っております。長々とすいません。私からは以上でございます。

■経済商工観光部 梶村部長

何点かありましたけど、まず宿泊税の議論につきまして、この審議会でどのような議論を我々期待しているかといいますと、やはりこれにつきましては、施策面の充実について議論していただきたいと思っております。この6ページを見ていただきますと、色々新規とか考えておりますが、宿泊税が仮に導入されて財源が多くなった場合には、新規や拡充ができるのではないかと考えております、皆様方には、この施策のイメージをご議論いただきたいと思っております。

それから、骨子案をどう特徴づけるか、それからターゲットをどうするかっていうところは、本日色々御意見いただいたものですから、我々としましては、もう少しエッジの効いたといいますか、特徴を出せるようにしたいと思います。次回、皆様の御意見を踏まえた上で、こういうふうに変更させていただきました、こういうふうに進化させましたというのを発表させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

■内田会長

すいません。宿泊税っていうのはお伺いしたような気がするんですけど、県のお金のためじゃなくて、観光を発展させるための税金ということでよろしいでしょうか。

■経済商工観光部 梶村部長

これはあくまで特定目的税として徴収しますので、宮城県の観光振興のために使うんだということで、明確にして、今の原案では基金を設置し、宿泊される方々が納税されるものですから、しっかりと透明化して基金としていきたいと思っております。それを資料6ページにあるような、例えば、観光地域づくり支援や今後の観光人材の育成確保とか、こういったものにどう使っているか、頂いたお金はこう使っていますというのを明確化させていただきます。予算的には県の予算ですが、県の一般財源のように、何に使われるか分からないというのではなく、何に使ったのか明確にお示しできるものです。

■内田会長

そうなりますと、単純に税金としてお金を取るとしていると、効果的ではないように思います。次の観光にまた来ていただくようになど、観光を良くするためにこの税金を用いていますと説明すれば効果的だと思いますから、それを説明することが大切だと思います。

それ以外に何かございますか。

■齋藤（由）委員

齋藤由布子です。よろしくお願いいたします。意見と説明をお願いしたいところがあります。まずは、私の姪が先週までアメリカから遊びに来ておりまして、日本全国あちこち、旅をして楽しそうに過ごしていました。現在、日本の強烈なコンテンツになっているのがアニメとか漫画のキャラクターです。ファンの方は遠くても厭わず、どんなところでも行きます。そこで、グッズを購入したり、推し活のパワフルさはとてもすごいです。

こういった部分で、宮城県でも有力なコンテンツを持っているはずですし、仙台朝市で

若い方に人気の俳優さんが頭をぶつけた場所は未だにファンの方が来て、写真を撮っていきます。有名アーティストがくれば、仙台の餅屋さんにファンがたくさん来ます。日常でも起きていて、団体でどっと来るわけではなく、個人の推し活、ソロ活が近年、特にコロナ禍後目立った動きだなど感じています。そのあたりをもっとシェイプしていけたらいいと思います。

大阪万博のことが最後に出てきましたが、こちらが新規という形が出ていたので衝撃を受けました。宮城県のアンテナショップが今年度で閉鎖ということ決まっておりますが、ちょうど、この間までとある県のアンテナショップオープンのため大阪に行っております。大阪駅近くのKITTE大阪店です。その中に日本全国の様々なアンテナショップが集まって賑わいを創出しておりまして、ここに東北の影がないのは寂しいなと思っております。やはり、アンテナショップを新たにオープンした方たちは、皆さん大阪万博をにらんで出展したところが多いです。新規で万博に向けた誘客ということが入っていますが、具体的にはどんなことを行うことにしているのでしょうか。何が進んでいるのか少し不安があります。

また、4月に能登半島に行ったときに、今1泊何十万という宿の話が出てきましたが、車で通りかかったときに風光明媚な場所に非常にエモーショナルな建物がありまして、なんだろうと調べてみたら、1泊15万円くらいで1日1組限定、元々はお寿司屋さんが始めたという宿でした。予約が取れない宿ということで非常に人気があるということを目にしました。今、働き手もいないですし、観光客も少ないということであれば、1人に1万円で10人相手にしても10万円ですし、1人10万円で1人を相手にしても収益は同じですし、利益率は高いと思います。全てをそのようにするべきではないとは思いますが、少し尖ったコンテンツがあることで、そこに行ってみようという観光客の目が動くことがあると思います。

■経済商工観光部 梶村部長

アニメコンテンツについては我々も注目しております。ポケモン社とは連携をしております、仙台市でポケモンGOのイベントがあり、市内に人が溢れたことは皆さまも感じたと思います。その昔は石巻市でポケモンGOを行いました、その時も石巻市内が大混乱になりました、民家に入ってしまったという反省点もございました。そのようにアニメには非常に大きな魅力があると思いますので、我々としましても観光のにぎわい創出にコンテンツを強力に活用していきたいと思っております。

誤解を招くような書きぶりになっており申し訳なかったのですが、大阪関西万博を契機とした東北誘客促進の新規というのは、あくまで大阪関西万博でこれを使って、新しいユーザーを作りますということで新規としています。宮城県にいらっしゃる観光客の7割が首都圏と東北からでして、関西、それから九州とかの地域からいらっしゃる方を増やし、パイを太くしようと思っております。スカイジャーニー仙台・宮城キャンペーンという航空会社と連携したキャンペーンもやっております。

今回はあくまで大阪関西万博を契機とした施策となります。では、今は何をやっているのかということですが、先ほどからの議論に繋がりますが、宮城県単体で万博に出ても効果は薄いだらうと思ひまして、東北6県で万博に出展しようと東北観光推進機構が中心になって、各地のお祭り、宮城県で言えば、七夕祭りやすずめ踊りをいかにインバウンドの方にアピールできるのか調整しております。一定期間東北ブースとして出展し、世界に発信することを考えております。

宿泊のあり方については、私どもも考えておりますが、一方で宮城県には湯治文化があります。様々なお客様がおりますので、お客様の層を考えながら、宿泊施設と連携して考えていきたいと思ひます。

■内田会長

ほかにありますでしょうか。

■齋藤（裕）委員

生協の立場から意見を言わせていただきますと、6ページの教育旅行のところで、震災という言葉が出てきていないようですが、みやぎ生協としましては、3.11を忘れないという活動に取り組んでおりまして、被災地への訪問ですとか継続して活動している状況です。教育という面からそういったことは続けていただきたいと思います。

個人的な意見としましては、宮城県という場所自体ちょうどいい場所で、悪い言い方をすると中途半端な場所だと思っていて、何をしてもすごいという感じにはならない県になってしまっているのではないかと宮城県民として残念だと感じております。本当に個人的な意見ですけど、宮城県は古い物を大事にしない県だと感じていまして、いろんな物を壊してしまっていて、旧県庁にしてもとても趣のある建物でしたのに壊してしまいました。なぜそういうことになるのか考えてみると、地震が多いから崩れてしまう、建て直す、という歴史がずっと根付いていて、新しいものに魅力を感じ、古い物が素敵という感覚を県民が持っていないのかとも思いました。京都や横浜などは古い建物が残っていて、観光の資源になっています。古い歴史のあるものを大事にするということを育てていくことによって、自分が住んでいる県はそのような良いものがあるのだと、県外の人に広める、教えるようになるのではないかと教育の面から見ると、そのあたりも大事にしていくと、どういう人達をどのようなコンテンツで呼び寄せることができるかなと考えられる県民になっていくのではないかと思っています。これからのことを考えて、教育の面から意見をお伝えしました。

■経済商工観光部 梶村部長

まず1点目の教育旅行での被災地のことですが、資料には記載されておきませんが、台湾などから来ていただいた時は必ず被災地を回るように予定を組んでおります。こちらは引き続き継続させていただきます。

2点目ですが、古い歴史的な建物などについては、先ほど説明もありましたが、今年が多賀城創建1300年の年でありまして、県でも力を入れて取り組んでおります。多賀城市も力を入れておりまして、南門を再建しましたし、県も秋から冬にかけてキャンペーンを実施予定です。伊達文化も含めて歴史的なものを活用してまいりたいと思います。

■角田委員

農業部会の角田です。

2点ありまして、1点目が先ほどの委員の御意見と重なりますが、成長戦略でターゲットを細かく分けていまして、大変素晴らしい戦略を立てられていると思いますが、ある一定の年齢層に重点が置かれているのではないかと感じていて、若い人に対してどういう戦略を立てていくのかと思いました。

それから、観光ということで従来の観光と大分変化が出てきているなどと思ひまして、例えば、農業の例ですが、旅行会社と提携してあるところに旅行に行つて、その農作業を手伝つて、旅費の足しにする。バイトをしてお金をもらい、低コストで旅行も農業も体験できるというプランを出しているところがあつて、観光振興にもなりますし、農業の人手不足の解消にもなるとそういったことを活用して、一石二鳥というようにそのような取組も視野に入れていくといいのかなと思ひました。

■経済商工観光部 梶村部長

客層、ターゲットにつきましては、先ほども御指摘がありましたので、もう少し考えていきたいと思つております。悩んでおりますので、ターゲットをどうするのかということもですが、圏域ごとにどうするのか考えております。先ほどの資料にありましたが、大崎

地域、特に鳴子地域は非常にいい資源ですが、観光客入込数、宿泊者も戻ってなく、ではそこをどうしていくのか、気仙沼はどうしていくのかなど考えております。宮城県の観光を見ますと仙台の一人勝ちでございますので、それをいかに県内の各圏域にお互いの交流人口を増やしながらかつて発信していくのかということが、6ページの施策の中で取り組んでいきたいと思っております。

■内田会長

大分時間が過ぎてまいりました。最後にオンラインで参加されております、塩坂委員から御質問ございましたら、お願いします。

■塩坂委員

石巻の塩坂と申します。本日はありがとうございます。

質問ではないのですが、私は移住者ですけど、石巻の自宅で5年ほど民泊 Airbnb をやっております、7割が海外の方が来ていただいております。大変マイクロな話で申し訳ないのですが、現場の動向としてお伝えしたいのが、まずは石巻特に私のエリアは有名な日和山の隣りにある泉町という場所で石巻駅からは徒歩15分くらい、街中にも徒歩10分くらいのととても便利なエリアですが、山の上で起伏が激しいという場所で、何を目当てに世界中から来てくれるかというところ99%が田代島、猫島を求めていらっしゃいます。たまたま、私の家にも愛猫が3匹いて、Airbnbという予約サイトにリスティングを広告ではないですが、PRのものを猫の写真と一緒に載せていますと、世界中から田代島に行きたくて、今までは仙台市に泊まっていた、石巻市に泊まらず、日帰りでした方や仙台にも泊まらず東京から日帰り田代島に来ていたお客さんが小さい宿ですけど我が家を見つけてくれて前泊に利用されます。朝9時の船で田代島に行くというパターンが多くあります。キラコンテンツとしては、石巻は断然田代島かと思えます。宮城県に来る観光客全般にも言えることだと思いますが、その中のお客さんは動物が好きで、田代島を目的に来ていますので、それ以外に何ができるのかという感じで、だいたい1泊で帰られてしまいます。中には欧米の方でゆっくりと3泊くらいしてくださる方もいらっしゃって、その方たちに正直石巻という街でどういうふう田代島以外でおすすめできるコースというのを私はおすすめしなくてははいけませんので、手書きで自分の家の周りのマップを英語版と日本語版と作りまして、とってもマイクロなおすすめエリア、おすすめの居酒屋さん、それから2泊であればこういうコース、3泊であれば松島まで入れて作りまして。海外の方は石巻から松島まで1時間で行けますので、とても近いねと言われるので、うちを起点にそこまで行っていただきます。各エリアでとても小さなホスピタリティと言うか、地に足が付いた地元の方がしっかり良く考えて、ターゲットに合ったモデルコースを何パターンか持っている旅行者には喜ばれます。我が家のレビューがありますが、それも多くは猫が可愛かったもありますが、おすすめのお店やエリアや遊び方を宿の方に詳しく教えてもらってそれがとても良かったという声が大半を占めております。リピーターの方も台湾、中国、オーストラリア、ポルトガルから二度三度と来ていただいて、今でも Skype や SNS で繋がって、少ないですけど関係人口を増やしているのかなと思えます。

施策としては、各エリアにインバウンド専門員の設置はどうかと思っております。DMOが各エリアにあると思えますが、石巻圏域のことを話しますとインバウンドに特化して得意なスタッフの方はいらっしゃらない印象で、外国人をターゲットにした面で繋ぐモデルコースの提案もできていなければ、飲食店の開拓もできていなければ、全て私は自分で探し出して、自分の宿だけのそういったコースを作るしかないという状況ですので、得意な人を見つけ出して、エリアのインバウンド専門員というような形で任せてみるのもいいのではないかと思っております。

戦略的プロモーションというのをやりたいなと個人的には思っております。例えば、FacebookのプライベートグループでJapan travel groupという海外の方が日本を旅行す

る時に使うプライベートグループを見ていると、22.4万人のフォロワーというか登録人数がおります。各国の人が今度、東京都と京都や広島や長崎に行くのでおすすめを教えてください、今渋谷で迷っているからどうすればいいのとかリアルタイムで日本旅行が好きな方や経験者が教えてあげるようなものです。こういったものが今 SNS でたくさんありますので、そういったところに戦略的に情報を載せていく。ただ、あまりにPRになるとしらけてしまいますので、石巻にはこういうものがあるよと投稿してみる、戦略的に投稿してみ、そういったものを定点観測してみ、自分のエリアを得意な人が旅行者と同じ目線でPRしていくということが大変地道ですけど、お金もかからずにいいのではないかと思います。

ごめんなさい。長くなりますがもう1点あります。これとは別にエッジの尖った売り方の話が先ほどからあったと思いますが、この1、2年で思っているのが猛暑ですね。日本の夏はもうだめだという海外の方の SNS 等での投稿が頻繁に目にしまして、日本にもう行くべきではないとか、特にこの湿気がひどい、地獄のようだと言われますし、日本のメディアも毎日のように猛暑だと言っていて、もう段々と日本の夏にはインバウンドは減って行くんじゃないかと予想しています。それとは逆に石巻は比較的涼しいです。そこで東北を日本の避暑地として売り出すのはどうだろうと思っています。今までは私も関西の人間で東北の印象がなく、東北に行くなら北海道に行こうかなと思っていましたので、何ができるところなのか分からず、震災をきっかけに知った人が多いと思います。私もその一人で震災後に初めて仙台に来ましたので、この猛暑、日本の夏を気候変動を利用して、東北の夏の時代が来るのではないかと考えていました。仙台を昼間歩きましょうっていうのは酷だと思いますので、東北を探せば涼しい風の通る場所があります。石巻の私の家は海が近く、山の上なので、毎日風が気持ち良く、エアコンもほとんどつけません。泊まりに来るお客さんもびっくりするくらい涼しかったと言って帰っていきます。私的には見える化していこうと思っていますが、宮城県全体でも避暑地としてブランディングができないのかなと思っています。

あと、県で運営しています VISIT MIYAGI というサイトを拝見しました。海外のライターさんを使って書いていただいているのでいいかなと思ったのですが、そこにもう1個伝える情報、宮城県はとて素晴らしい温泉があると思いますが、海外の方が利用するにはタトゥーフレンドリーが知りたい、その情報がなければなかなか使ってもらえないです。あとはベジタリアンやビーガン、ムスリムの方など食に配慮が必要な方が食べられるレストランなどの情報はあまり簡単には手に入らないので、そういったとこまで落とし込んでいただけるといいサイトになるのではないかなと思いました。長くなりましたが以上です。

■内田会長

ありがとうございます。そろそろ時間ですのでよろしいでしょうか。

皆さんからのご意見を踏まえ、第6期みやぎ観光戦略プランの策定について、商工業部会でさらにご審議いただくことにしたいと思いますので、青木部会長はじめ部会委員の皆さまよろしくお願いたします。

なお、時間の関係でお話できなかったご質問やご意見がありましたら、後日事務局まで連絡いただければと思います。

では、進行を事務局に戻します。

■富県宮城推進室 太田副参事

内田会長、ありがとうございます。

では、議題4その他でございます。

事務局から今後の審議会スケジュールについて御説明いたします。参考資料を御覧ください。

次回、第54回の審議会については、11月中旬に「第6期みやぎ観光戦略プラン」の

中間案について御審議いただく予定でございます。

また、第55回の審議会については、来年2月上旬に開催し、「第6期みやぎ観光戦略プラン」の最終案を御審議いただき、その後、会長から知事へ答申いただく予定でございます。

さらに、第55回の審議会では、「水産業の振興に関する基本的な計画（第Ⅲ期）」の中間見直しについて、諮問する予定でございます。

事務局からは以上となりますが、全体を通して皆様から何かございますでしょうか。

特にないようでございますので、以上をもちまして第53回宮城県産業振興審議会を閉会させていただきます。

なお、次回の部会及び全体会の開催日時等につきましては、後日改めて御連絡いたしますのでよろしくお願いいたします。

本日は、ありがとうございました